



十勝川治水100年
トークリレー ⑯

帯広農業高校では、十勝川中流部市民協働会議からの呼び掛けで、2013年に十勝川中流部川づくり班を立ち上げ、十勝川中流部湿地での活動を開始しました。十勝川中流部川づくり班は帯広農業高校農業土木工学科の有志の生徒によって構成されています。

活動開始当初は、造成された水たまりに生物がすみよい環境をつくり出すことで、生物数を増やせるか、という実験的な取り組みが中心でした。14年からは並行して、湿地環境と生物のモニタリングを開始し、その活動が現在に至っています。

この間、16年8月の台風出水もあり、造成湿地において、人の力と自然の力がどのような

十勝川治水100年記念事業

トークリレー



帯広農業高校 十勝川中流部川づくり班
山本 翔愛さん
林 乙輝さん



十勝毎日新聞
令和5年8月31日 3面 掲載

湿地調査で多くの学び

に影響してきたかを考察する機会を得ることができました。十勝川中流部川づくり班では、年に2回の調査への参加や、活動成果の発表などに関わっています。今年で10年目を迎える活動には、これまで300人を超える仲間が参加してきました。



山本翔愛さん（左）、林乙輝さん

子どもの頃から釣りに行くなど、川は身近な存在ではありましたが、この活動では、川との触れ合いの機会にもなっています。学習や湿地調査などを通して、こういった生物がいるのだからという意識を持つて調査に取り組めるようになったほか、この湿地の

水中には絶滅危惧種の生物が生息していることも分かり、調査に参加しなければ学べないことが多くあります。

私たちにとって、十勝川の川づくりは人づくりへとつながっていると思います。十勝川治水100年は、十勝川と地域の発展を願う先人たちがつないだリレーであり、そのバトンを十勝川に触れて学んだ私たちがつないでいかなければなりません。今後も、生物がすみ続けられる環境を守りながら、この活動を続けるとともに、河川に関わる仕事につなげたいと思います。

十勝川の治水事業は今年、100周年の節目を迎えた。治水事業と関わりのある関係者の思いや将来に向けたメッセージを紹介する。

(随時掲載)

